

# 大岡川分水路

笹下5丁目

## 背景

大岡川は円海山付近を源流とし、横浜市の中心部を貫流して、横浜港に流入している河川です。

かつて大岡川の上流地域は山林や田畑の多い丘陵地でしたが、昭和30年代後半からの高度経済成長に伴う都市への人口集中と、JR根岸線の開通によって洋光台及び港南台など多くの宅地開発が行われた。

## 災害の発生

昭和36年6月の梅雨前線豪雨及び昭和41年6月の台風4号による洪水の為、大岡川は中・下流域で氾濫し、ともに数千戸が浸水する大被害が発生した。

## 建設

そこで、蛇行していた河川を真直ぐに改修し、更に流域の人々の安全の為、日野川と大岡川の合流点より上流の流水を直接、根岸湾に流す分水路（2つのトンネルと開水路からなる全長3.6km）を、昭和44年から12年の歳月と166億円の費用を投じ昭和56年3月に完成させた。

## かわじまの碑(碑文の趣旨)

この取水庭は、かつて大岡川が東へ大きく迂回して流れ、島のような形態をなし、古来「川嶋(かわじま)」と呼ばれ、代々北見氏の居住地であった。

この居住地が分水路建設のために消える事は惜しまれるが、洪水対策として公共のためにいかされる意義は大きく、「かわじま」の史的背景を後世に伝える。

昭和56年3月 横浜市



分水路全景